

愛しきもの。瓜に描きたる乳児の顔。雀の子の、鼠鳴きする

に躍り来る。二つ、三つばかりなる稚児の、いそぎて這ひ来るみ

ちに、いと小さき塵のありけるを、目ざとに見つけて、いとをか

しげなる指にとらへて、大人などに見せたる、いと愛し。頭は

尼剃ぎなる稚児の、目に髪のおほへるを搔きはやらで、うち傾き

て、ものなど見たるも、愛し。

大きにはあらぬ殿上童の、装束きたてられて歩くも、愛し。

をかしげなる稚児の、あからさまに抱きて遊ばし、愛しおほどに、

かいつきて寝たる、いとらうたし。

雛の調度。蓮の浮葉のいと小さきを、池より取り上げたる。

葵のいと小さき。何も何も、小さきものは、みな愛し。

いみじう白く、肥えたる乳児の、二つばかりなるが、二藍の

羅など、衣長にて、襷結ひたるが、這ひ出でたるも、また、

短きが袖がちなる着て歩くも、みな愛し。

八つ、九つ、十ばかりなどの男児の、声はをさなげにて、書

読みたる、いと愛し。

鶏の雛の、脚高に、白うをかしげに、衣短なるさまして、

名前

ハ

リ

「びよびよ」と、かしがましう鳴きて、人の後先に立ちて歩くも、
をかし。

また、親の、ともに連れて、立ちて走るも、みな愛し。雁の卵。

瑠璃の壺。